

教職員等によるセクシュアル・ハラスメント及び
パワー・ハラスメントに関する調査結果について

1 調査目的

教職員等によるセクシュアル・ハラスメント及びパワー・ハラスメントに関する実態を把握し、教職員等の意識高揚を通じてハラスメントを未然に防止し、ひいては職場からの重大かつ悪質な非違行為の根絶を図ること目的とする。

2 調査方法

(1) 調査対象

福島県内の公立学校に勤務する全教職員等（※会計年度任用職員（スクールカウンセラー、スクールサポートスタッフ、部活動指導員等）を含む。）

(2) 調査内容

職場におけるセクシュアル・ハラスメント及びパワー・ハラスメントの被害等について、2段階に分けて調査を実施した。

第1段階：全教職員を対象とする匿名式アンケート

第2段階：聴き取り調査等を希望する者を対象とする記名式アンケート

(3) 調査項目

ア 「職場におけるセクシュアル・ハラスメント等の防止等に関する指針（令和2年5月28日）」を読んだことがあるか。

イ 令和4年7月1日から回答日までの間に、職場における上司や同僚から、セクシュアル・ハラスメントにあたる言動を受け、不快だったことがあるか。

ウ セクシュアル・ハラスメントに関して、どのような内容を不快と感じたか。

エ セクシュアル・ハラスメントに関して、どう対応をしたか。

オ セクシュアル・ハラスメントに関して、教育委員会にはどのような対応を望んだか。

カ 「職場におけるパワー・ハラスメントの防止等に関する指針（令和2年5月28日）」を読んだことがあるか。

キ 令和4年7月1日から回答日までの間に、職場における上司や同僚から、パワー・ハラスメントにあたる言動を受けたことがあるか。

ク パワー・ハラスメントに関して、どのような内容の被害を受けたか。

ケ パワー・ハラスメントに関して、どう対応をしたか。

コ パワー・ハラスメントに関して、教育委員会にはどのような対応を望んだか。

(4) 調査方法

第1段階及び第2段階ともにGoogle フォームを活用し、オンライン上で各アンケート調査項目に回答してもらった。

(5) 調査期間

令和5年6月19日(月)から令和5年7月7日(金)まで

(6) その他

調査アンケート最終頁では、「今後、職場において、セクシュアル・ハラスメントもしくはパワー・ハラスメントの被害を受け、自分だけの力で解決するのが難しいと感じた時は、詳細をメールでお知らせください。また、あなた以外の方がハラスメントの被害にあった場合なども、メールで情報提供をお願いします。」と今後に向け情報提供を呼びかけた。

3 調査結果

(1) セクシュアル・ハラスメント

ア 県教育委員会「職場におけるセクシュアル・ハラスメント等の防止等に関する指針」(令和2年5月28日)を読んだことがありますか。

県立学校の回答

指針を読んだことがある割合	91.1%
はい	3073名 (昨年91.7%)
いいえ	299名

市町村立学校の回答

指針を読んだことがある割合	89.6%
はい	8627名 (昨年91.3%)
いいえ	1002名

福島県全体の回答

指針を読んだことがある割合	90.0%
はい	11700名 (昨年91.4%)
いいえ	1301名

イ 令和4年7月1日から本日までの間に、職場における上司や同僚から、セクシュアル・ハラスメントにあたる言動を受け、不快だったことがありますか？

県立学校の回答

はいの割合	1.81%	(昨年1.80%)
はい	61名	
いいえ	3311名	

市町村立学校の回答

はいの割合	1.24%	(昨年1.40%)
はい	119名	
いいえ	9510名	

福島県全体の回答

はいの割合	1.38%	(昨年1.51%)
はい	180名	
いいえ	12821名	

ウ 不快だったのは、次のうちどれですか。(複数回答可)

【県立学校】

セクシュアル・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 性的な話・冗談等を言われ不快であった	27
イ 必要以上に身体を触られ不快であった	6
ウ 周囲に人が居るところで容姿を話題にされ不快であった	16
エ 性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい不快であった	3
オ 男のくせに、女のくせに等と言われ不快であった	8
カ その他	24
合計	84

(回答実人数 61名)

【市町村立学校】

セクシュアル・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 性的な話・冗談等を言われ不快であった	36
イ 必要以上に身体を触られ不快であった	10
ウ 周囲に人が居るところで容姿を話題にされ不快であった	16
エ 性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい不快であった	4
オ 男のくせに、女のくせに等と言われ不快であった	16
カ その他	51
合計	133

(回答実人数 119名)

【福島県全体】

セクシュアル・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 性的な話・冗談等を言われ不快であった	63
イ 必要以上に身体を触られ不快であった	16
ウ 周囲に人が居るところで容姿を話題にされ不快であった	32
エ 性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい不快であった	7
オ 男のくせに、女のくせに等と言われ不快であった	24
カ その他	75
合計	217

(回答実人数 180名)

エ 不快だったとき、次のうちどう対応をしましたか？（複数回答可）

【県立学校】

セクシュアル・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 行為者に抗議した	14
イ 上司、先輩、同僚に相談した	23
ウ 相談窓口など職場外の窓口に相談した	3
エ しばらく職場を休んだ	1
オ 何もしなかった	33
カ その他	2
合計	76

（回答実人数 61名）

【市町村立学校】

セクシュアル・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 行為者に抗議した	13
イ 上司、先輩、同僚に相談した	47
ウ 相談窓口など職場外の窓口に相談した	5
エ しばらく職場を休んだ	5
オ 何もしなかった	66
カ その他	2
合計	138

（回答実人数 123名）

【福島県全体】

セクシュアル・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 行為者に抗議した	27
イ 上司、先輩、同僚に相談した	70
ウ 相談窓口など職場外の窓口に相談した	8
エ しばらく職場を休んだ	6
オ 何もしなかった	99
カ その他	4
合計	214

（回答実人数 184名）

オ 教育委員会には、どのような対応を望みましたか？（複数回答可）

【県立学校】

セクシュアル・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 行為者を処分してほしい	13
イ 行為者を配置転換してほしい	17
ウ 自分を配置転換してほしい	3
エ 管理職には知らせてほしくない	9
オ 特に要望はない	22
カ その他	14
合計	78

(回答実人数 61名)

【市町村立学校】

セクシュアル・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 行為者を処分してほしい	14
イ 行為者を配置転換してほしい	22
ウ 自分を配置転換してほしい	12
エ 管理職には知らせてほしくない	14
オ 特に要望はない	59
カ その他	18
合計	139

(回答実人数 124名)

【福島県全体】

セクシュアル・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 行為者を処分してほしい	27
イ 行為者を配置転換してほしい	39
ウ 自分を配置転換してほしい	15
エ 管理職には知らせてほしくない	23
オ 特に要望はない	81
カ その他	32
合計	217

(回答実人数 185名)

(2) パワー・ハラスメント

ア 県教育委員会「職場におけるパワー・ハラスメントの防止等に関する指針（令和2年5月28日）」を読んだことがありますか。

県立学校の回答

指針を読んだことがある割合	89.4%
---------------	-------

はい 3015名 (昨年90.2%)
いいえ 357名

市町村立学校の回答

指針を読んだことがある割合	88.3%
---------------	-------

はい 8503名 (昨年90.1%)
いいえ 1126名

福島県全体の回答

指針を読んだことがある割合	88.6%
---------------	-------

はい 11518名 (昨年90.2%)
いいえ 1483名

イ 令和4年7月1日から本日までの間に、職場における上司や同僚から、パワー・ハラスメントにあたる言動を受けたことがありますか？

県立学校の回答

はいの割合	6.64%	(昨年5.96%)
-------	-------	-----------

はい 224名
いいえ 3148名

市町村立学校の回答

はいの割合	4.32%	(昨年4.30%)
-------	-------	-----------

はい 416名
いいえ 9213名

福島県全体の回答

はいの割合	4.92%	(昨年4.74%)
-------	-------	-----------

はい 640名
いいえ 12361名

ウ パワー・ハラスメントについて、受けた言動は次のうちどれですか。(複数回答可)

【県立学校】

パワー・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 叩かれたり、蹴られたり、物を投げつけられたりした	6
イ メールやSNS等を含め、暴言や名誉毀損があったり、侮辱されたりした	40
ウ 厳しく叱責し続けられたり、改善点の具体的指示なく、繰り返し文書の書き直し等を命じられた	46
エ 威圧的な行為をされたり、ミスを責任転嫁されたりした	98
オ 実現不可能なことや、無駄な業務の強要をされた	47
カ 仕事を与えない・隔離・仲間外し・無視などされた	38
キ その他	48
合計	323

(回答実人数 223名)

【市町村立学校】

パワー・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 叩かれたり、蹴られたり、物を投げつけられたりした	5
イ メールやSNS等を含め、暴言や名誉毀損があったり、侮辱されたりした	62
ウ 厳しく叱責し続けられたり、改善点の具体的指示なく、繰り返し文書の書き直し等を命じられた	91
エ 威圧的な行為をされたり、ミスを責任転嫁されたりした	233
オ 実現不可能なことや、無駄な業務の強要をされた	91
カ 仕事を与えない・隔離・仲間外し・無視などされた	71
キ その他	103
合計	656

(回答実人数 418名)

【福島県全体】

パワー・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 叩かれたり、蹴られたり、物を投げつけられたりした	11
イ メールやSNS等を含め、暴言や名誉毀損があったり、侮辱されたりした	102
ウ 厳しく叱責し続けられたり、改善点の具体的指示なく、繰り返し文書の書き直し等を命じられた	137
エ 威圧的な行為をされたり、ミスを責任転嫁されたりした	331
オ 実現不可能なことや、無駄な業務の強要をされた	138
カ 仕事を与えない・隔離・仲間外し・無視などされた	109
キ その他	151
合計	979

(回答実人数 641名)

エ 不快だったとき、次のうちどのように対応をしましたか？（複数回答可）

【県立学校】

パワー・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 行為者に抗議した	43
イ 上司、先輩、同僚に相談した	117
ウ 相談窓口など職場外の窓口に相談した	15
エ しばらく職場を休んだ	9
オ 何もしなかった	74
カ その他	25
合計	283

(回答実人数 224名)

【市町村立学校】

パワー・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 行為者に抗議した	80
イ 上司、先輩、同僚に相談した	251
ウ 相談窓口など職場外の窓口に相談した	46
エ しばらく職場を休んだ	25
オ 何もしなかった	137
カ その他	40
合計	579

(回答実人数 415名)

【福島県全体】

パワー・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 行為者に抗議した	123
イ 上司、先輩、同僚に相談した	368
ウ 相談窓口など職場外の窓口に相談した	61
エ しばらく職場を休んだ	34
オ 何もしなかった	211
カ その他	65
合計	862

(回答実人数 639名)

オ 教育委員会には、どのような対応を望みましたか？（複数回答可）

【県立学校】

パワー・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 行為者を処分してほしい	66
イ 行為者を配置転換してほしい	90
ウ 自分を配置転換してほしい	39
エ 管理職には知らせてほしくない	16
オ 特に要望はない	57
カ その他	38
合計	306

(回答実人数 224 名)

【市町村立学校】

パワー・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 行為者を処分してほしい	91
イ 行為者を配置転換してほしい	123
ウ 自分を配置転換してほしい	73
エ 管理職には知らせてほしくない	53
オ 特に要望はない	140
カ その他	81
合計	561

(回答実人数 417 名)

【福島県全体】

パワー・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 行為者を処分してほしい	157
イ 行為者を配置転換してほしい	213
ウ 自分を配置転換してほしい	112
エ 管理職には知らせてほしくない	69
オ 特に要望はない	197
カ その他	119
合計	867

(回答実人数 641 名)

4 結果の総括

(1) セクシュアル・ハラスメント

- 回答者の中でセクハラ被害を受けたことがあると回答した割合は、県立学校が1.81%、市町村立学校が1.24%となっており、県立学校の割合が市町村立学校と比べ若干多い傾向にあった。
- セクハラ被害への対応では「何もしなかった」(99件)が最も多く、次に「上司、先輩、同僚に相談した」(70件)が多かった。逆に「行為者に抗議した」(27件)と少ない結果となった。
- セクハラ被害者が教育委員会に求める対応としては、「特に要望はない」(81件)が最も多く、「行為者を配置転換してほしい」(39件)、「行為者を処分してほしい」(27件)などの回答を大きく上回る結果となった。
- その他セクハラとして不快に感じた具体的記述としては、女性蔑視的な言動、結婚・出産・子どもの有無に関する発言及び年齢に関する発言が、多く見受けられた。

(2) パワー・ハラスメント

- 回答者の中でパワハラ被害を受けたことがあると回答した割合は、県立学校が6.64%、市町村立学校が4.32%となっており、県立学校の割合が市町村立学校と比べ多い傾向にある。
- 「威圧的な行為をされたり、ミスを責任転嫁されたりした」(331件)が最多であった。「叩かれたり、蹴られたり、物を投げつけられたりした」(11件)を除き、ほぼ同じ程度の被害件数が報告された。
- パワハラへの対応としては、「上司、先輩、同僚に相談した」(368件)が「何もしなかった」(211件)を上回る結果となった。
- 全体としてみれば、パワハラに関する訴え(4.92%)は、セクハラに関する訴え(1.38%)の約3倍となっている。ハラスメント問題に軽重はないが、現場においてはパワハラに関する問題解決が急務だと考えられる。

5 今後の県教委の対応

- 非違行為と認められる場合は、事実確認を行い、厳正に対処する。
- セクシュアル・ハラスメント等及びパワー・ハラスメントの防止等に関する指針のさらなる啓発に努める。また、校内サービス倫理委員会や研修等のテキストとなる「信頼される学校づくりを職場の力で」では、ハラスメントに関する項目をさらに充実させることにより、ハラスメント行為防止に向けた教職員の意識高揚を図る。
- 引き続き、教職員相談窓口及びハラスメント相談窓口の周知に努める。